

# 伊能忠敬

研究

史料と伊能図



二〇一一年  
伊能忠敬関係資料国宝指定記念  
伊能忠敬研究会十五周年記念  
特集号





▲ 大阪城から淀川下流の拡大

## 表紙図解説

米国議会図書館所蔵

伊能大図第一三五号 大坂

二〇〇一年にアメリカ議会図書館で発見された伊能大図模写図二〇七枚のなかの着色図で、最も美しいと思われる図である。大阪城が描かれ、淀川にかかる三つの大橋が見える。紀伊半島沿岸を測ってきた第五次測量の測線は沿岸部を通って、淀川沿いに京都へ抜けた。

四国測量の帰りの測線が尾崎から大阪を通り抜け、生駒を越えて、大和に入る。信貴山、龍田明神に参ってから当麻寺まで南下し、戻って法隆寺、法輪寺、法起寺に参詣、大和郡山に出る。それから矢田山にゆき、薬師寺、唐招提寺、などを経て奈良に出た。大和観光を兼ねた測量の始まりである。見学内容は大和霊宝記一巻に記されている。

海岸線と市街中央部の測線の間に、意味不明の空白部があり、以前から気になっていたが、伊能図は自分らで測らない部分は描かないという原則に従って、残されたのではないかと今は思っている。

(題字は忠敬の筆跡)

渡辺一郎

## 目次

### グラビア

伊能忠敬関係資料国宝指定記念 祝賀会・・・1

第一部 伊能忠敬記念館見学と記念撮影・伊能忠敬墓参・・・2

第二部 講演と伊能測量関係者子孫交流・・・3

第三部 祝賀会・・・4

出席された伊能家縁者・伊能研関係者らの紹介・・・8

大河ドラマの実現を目指して四首長会談・マスコミ各社の報道状況・・・9

### 経過報告

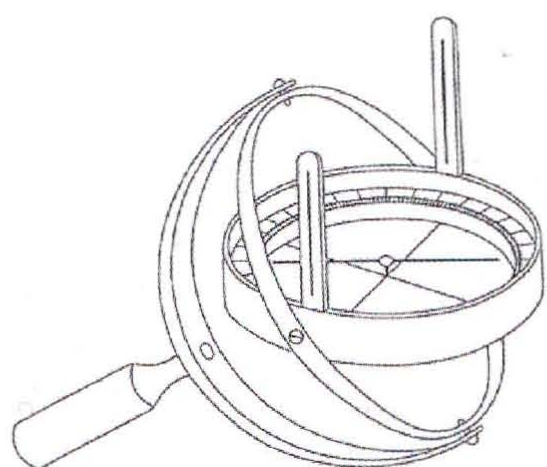
「フランス中図の佐原招聘から完全復元伊能図フロア展まで」・・・10

### 記念講演

「伊能忠敬の長女・お稲の血筋についての新事実」・・・14

会員便り・・・22

ほつとにゆーす・あとがき・・・24





二〇一一年二月十二日、昨年末から全国の会員各位に呼び掛けていた伊能忠敬関係資料国宝指定記念、伊能忠敬研究会十五周年記念祝賀会が佐原で開催された。写真などを交えて当日の流れを追ってみる。

(文・渡辺一郎)

## 伊能忠敬関係資料国宝指定 伊能忠敬研究会十五周年

## 記念祝賀会

前日から当日にかけて小雪という予報だったので、大変心配したが、前日に伊能敏雄理事(香取市議)が中心となって、渡辺も手伝って会場の開花亭の設営にあたる。

広い会場なので、横看板、立て看板、名札の配置、マイク、パワーポイントのテストも大変だった。

お墓の方は前日までに窪谷さん、本郷さん、成家さんが清掃を済ませてお花も飾られる。九州勢五名と金沢の河崎さんは、渡辺と一緒に北ホテルに前泊し、伊能理事も加わってミーティングと乾杯の練習。

夜明けたら降雪はなし。曇りだけどこれならOKと九州組は研究会の帽子をかぶって、タクシーで佐原駅、忠敬橋の迎え場所に散る。

渡辺、伊能市議は資材と一緒に別の車で伊能忠敬記念館にむかった。九時半頃だったが、集合場所の記念館には会員が大勢つめかけていた。伊能洋さん父子をはじめ、東金の高宮グループ、神保両家、木内志郎さん、香取支部長はじめ、地元会員も殆ど揃っていた。

成家さん、新沢さんが出席を確認し、当日案内と記念館入場券を渡してゆく。

深川富岡八幡宮の伊能忠敬像。  
2001年、伊能ウオーク終了記念に建立。







## 第二部 講演と伊能測量関係者子孫交流

墓参を終わったあと、バスにもどり、講演と祝賀会場の潮来大橋際の富士屋ホテル開花亭にいたのは十二時ころだった。

会場には先着の高宮家グループが、リボン、宮内会員用意の名札を展開して、受付の準備をしていた。一

同、軽い食事を済ませ、受付を終わったあと、あちこちに交歓の輪が広がる。



会場となった富士屋ホテル「開花亭」



来賓報道受付のエース

受付風景



事務局は大物が担当



子孫・会員受付は若手が担当

中央公民館でフランスの中図展を開き、これがきっかけで伊能忠敬研究会を結成、色々な展開をへて今日にいたる経緯が説明された。詳細は

十二時十五分講演会。鈴木純子事務局長の司会で講演が始まる。

講演1「忠敬長女・お稲さん夫婦の系譜に関する新事実」

研究会ホームページ・イノベディアの編集幹事をお願いしている戸村茂昭さんが、伊能測量後半に、忠敬のよき相談相手となった長女お稲さんの血筋について、新発見も含めて解説した。(詳細は十四ページ)

講演2「フランス中図の佐原招聘から完全復元伊能図フロア展まで」

渡辺一郎名誉代表から、佐原の



鈴木事務局長の司会で講演が始まる



講演会は盛況



経過報告の内容(一〇ページ)を参照されたい。



十五時から斎藤 仁さんの司会で伊能測量隊  
子孫の出席者が登壇し、伊能洋さん一家、両神  
保家、高宮家一統、柏木家、奥永渚さん一家が  
順次自己紹介した。（八ページも参照）



▲ 伊能忠敬旧宅に集合した伊能家縁戚の皆さん

▼ 伊能洋さんと琴女子孫の  
奥永さん達



▲ 挨拶のスピーチをされる伊能洋さん



◀ 神保家の本家と分家



◀ 高宮家グループのご挨拶



▶ 柏木家一統





伊能忠敬関係資料 国宝指定記念  
**伊能忠敬研究会“創立15周年”記念祝賀会**  
 主催：伊能忠敬研究会 後援：香取市・香取市教育委員会

第三部 祝賀会



司会を務める  
 伊能敏雄氏  
 (香取市議)

十六時十五分から  
 伊能敏雄氏の司会  
 で祝賀会に移った



▲ 開会宣言をする  
 香取禧良支部長

司会 伊能敏雄  
 開会宣言 香取支部長  
 代表挨拶 星埜代表理事  
 経過報告 渡辺名誉代表  
 「伊能研十五年間の活動と今後への展開」

来賓祝辞 香取市長 宇井成一様  
 来賓祝辞 衆議院議員 林幹雄様  
 来賓祝辞 衆議院議員 谷田川元様  
 来賓祝辞 国土地理院長 岡本博様  
 来賓祝辞 元佐原市長 鈴木全一様  
 来賓紹介 出席来賓全員を紹介

乾杯 横芝光町長 斎藤隆様

開宴



林衆議院議員



谷田川衆議院議員

ご祝辞をいただいた  
 来賓の方々



鈴木元佐原市長



岡本国土地理院長



宇井香取市長







▲ 乾杯の音頭をとる  
斎藤横芝光町長



### ▲ 「乾杯！」

本日は、あいにく天候に恵まれず足下の悪い中、香取市長を始め、地元選出の国会議員、県会議員、市会議員、国土地理院から院長、参事官、さらに関係自治体、関係団体の方々、伊能家御子孫の方々、そして伊能忠敬研究会の会員の皆様等多数の方々の御参加を頂き、伊能忠敬関係資料の国宝指定と伊能忠敬研究会の創立十五周年を祝っていただきまして誠に有り難うございます。

現在名誉代表を務めておられます渡辺一郎さんを中心に伊能忠敬研究会が発足して十五年になるわけですが、先ほどの講演会において、渡辺さんがお話しになったように伊能図の発見などを中心に様々な活動がなされて参りました。しかし、一昨年と、渡辺さんとともに伊能忠敬研究及び会の発展に大変なご貢献があった小島一仁さん、安藤由紀子さん、伊能陽子さん、佐久間達夫さんが相次いで鬼籍に入られました。まことに残念なことです。今回の伊能忠敬関係資料の国宝指定にはこれらの方々のお研究の成果に与るとこ



▲ 祝辞を述べる川島九十九里町長

斎藤 隆横芝光町長の乾杯の音頭で宴が始まった。開宴後も香取秀紀氏の司会で来賓のスピーチを継続する。



▲ 祝辞を述べる松岡土地家屋調査士連合会長

- 来賓祝辞
- ・日本土地家屋調査士連合会長 松岡直武様
  - ・九十九里町長 川島伸也様
  - ・千葉県議員 伊藤和男様
  - ・千葉県議員 谷田部勝男様

代表挨拶  
伊能忠敬関係資料国宝指定記念祝賀会の開催にあたって  
伊能忠敬研究会代表理事 星埜由尚



ろも多かったのではないかと思います。泉下で国宝指定の知らせに大変喜んでおられるものと思います。四人の方々のご冥福をお祈りする次第です。

さて、今回の伊能忠敬関係資料の国宝指定は、伊能家が大切に保管されてきた様々な史資料全てが伊能忠敬記念館に寄贈され、伊能忠敬の行った測量事業の全体像を知るための史資料がひとまとまりになったことにより、文化財保護法に規定されている世界文化の見地から価値が高く、たぐいえない国民の宝であると認められたことであると思います。

このたび国宝に指定された史資料以外にも、重要文化財に指定された数々の伊能図、文書や書簡、地方に残された伊能測量の記録など伊能忠敬に関する様々な地図や史料が存在します。それらも含めて我が国の誇る伊能忠敬全国測量を後の世に伝えていく義務を我々は負っているものと思います。

伊能忠敬研究会は、これまで伊能

忠敬に関する様々な研究、顕彰事業などを行ってきましたが、一昨年から関係自治体、日本写真印刷株式会社、(社)日本ウオーキング協会、土地家屋調査士会連合会、(社)私立大学協会など関係団体の支援・協力を得て「完全復元伊能図全国巡回フロア展」を実施して参りました。この三月の下旬には、香取市合併五周年を記念して「完全復元伊能大図フロア展」が香取市・千葉日報社の主催により開催されます。多数の来場を期待いたします。さらに今年も全国各地で「完全復元伊能図全国巡回フロア展」を開催する予定であります。

また、これまで夢として熱望しておりましたNHK大河ドラマでの伊能忠敬の採扱も、関係者の間で働きかけを開始され、夢が現実となる方向に向かって進みつつあると聞いております。

伊能忠敬の業績などについては、まだまだ謎の多いのが現状です。このたびの伊能忠敬関係資料の国宝指定を機に、伊能忠敬研究会の場でさらに研究を深め、伊能忠敬の人と業績について国民各位の間にさらに理解が深まるよう努力して参りたいと思っております。本日のご参会、誠に有り難うございました。



確かな一歩

作詞 柏木隆雄  
作曲 朝岡真木子

東から西へ連なる緑の島々  
美しい日本の 姿、形  
歩いて 歩いて 描いた人は  
伊能忠敬

九十九里の砂浜で  
潮騒を聴きながら  
星空に託した 夢  
海に向う 宇宙の彼方  
地球の不思議を 学ぶこと

確かなものを求めて  
与えられた命の限り  
精励の日々をつなぐ  
測量人生

礼節常に 人に感謝  
 謙讓の心で 生きた  
 伊能忠敬

踏み出した 確かな一歩が  
世界に示した  
美しい日本の 姿、形



### ▲ 作詞者の柏木氏



作曲者朝岡真木子さん  
によるピアノ演奏 ▶



## ◀「確かな一歩」を歌う 鴨川太郎氏

その後、本郷靖枝氏と新沢義博氏の司会でスピーチを継続。

スピーチは時間が限られていたため、遠来の会員を優先した。

・伊能研九州支部の各位 代表して石川清一九州支部長が挨拶。

・函館からお出での土地家屋調査士  
の斎藤重則、斎藤サダ様御夫婦。

奥様が会員です。

・同じく札幌からお出での伊能  
二三代様。介護のお仕事でご活躍  
中です。

・金沢市からお出での河崎倫代氏、日本史の先生です。

北海道から参加の  
斎藤様ご夫妻 ▶

祝辞

伊能忠敬関係資料の国宝指定祝賀パーティー開催、まことにおめでとうございます。

伊能図は世界の宝であり、伊能忠敬関係資料の国宝指定は、当然のことであると考えております。しかし、今迄歴史資料の国宝が二点しかない状況で、この度伊能忠敬関係資料が二、三四五点国宝指定された事は快挙であり、御同慶の至りでございます。

これは偏に、伊能忠敬先生の偉業を称える証であり、伊能家・伊能忠敬研究会関係各位の御努力並びに、顕彰の賜と、敬意を表するものでございます。

私事で恐縮ですが、私の曾祖父である榎本武揚の父、箱田良助（榎本武則）は伊能忠敬先生に教えを受け、第七次測量隊より測量に加わり『大日本沿海輿地全図』の作成時には内弟子筆頭として貢献したことを考える時の度の慶事は一人のものがございいます。

今後、益々伊能忠敬の研究を深め、発展させ、その業績を世の中に広めることを請い願うものとございます。

楊子謙之

平成二十三年一月吉日

▲  
榎本隆充氏  
からの祝辞

（二）で、測量隊員  
箱田良助の次男・榎  
本武揚の御子孫で、  
現在、東京農大の先  
生をしておられる榎  
本隆充様から祝辞  
をいただいたので、渡  
辺名誉代表から読  
み上げられた。

＊その他にも多くの珍しいお客様が出席されていた（八ページ参照）。

・「トリ」は郡山からお出でいただいた陶芸家で伊能研東北支部長の松宮輝明様。

ということで、すべての予定を終わり、香取伊能研佐原支部長の中で締め終わりました。

別れを惜しみながら、開花亭から潮来と佐原に別れてマイクロバスで帰途につきました。長い長い一日でした。



北海道から参加の伊能二三代  
さん（右）と内田さん



九十九里の伊能研究家・故中村城先生  
のお孫さんご夫妻



### ▲「トリ」をつとめた 松宮東北支部長



出席された  
伊能家縁者・伊能研関係者らの紹介

時間の都合で御挨拶いただけなかったのですが、多数の珍しい会員、関係者の御参加をいただきました。

まづ横芝光町の神保誠さん。忠敬の父貞恒の生家・神保本家の当主です。元高校の英語の先生でした。分家の神保弘之さんはお婿さんですが、貞恒の立てた分家の当主で、酒々井町の教育次長さんです。

分家は屋号を「店(たな)」といいます。珍しい屋号です。神保家は近くの坂田城の家老の神保長門守の末裔で、小田原落城後帰農して豪農になったといわれています。戦国文書を所蔵されています。横芝光町の斎藤町長は御親戚です。

高宮グループは、本家・高宮啓明さんほか十一名とお客様二名を含めた御参加です。今回新たに当会のイベントに加わって、DVDの制作を引き受けていた

くなど、大変な御協力をいただきました。高宮家は忠敬さんの長女お稲さんの末裔です。

千葉市の高校で地理の先生をしている中村様(夫妻は、忠敬出生の経緯などを解明された九十九里町の忠敬研究家、中村城先生のお孫さんです。

福岡からお出での、奥永渚さんとともに、忠敬さん末娘の伊能琴さんの末裔の方が五人もお見えでした。

伊能盛右衛門さんの末裔・稲生吉雄さんが高宮グループの一員として参加いただきました。千葉市で古書店を営んでおられます。盛右衛門さんは忠敬の養子で、お稲さんの夫です。米相場で失敗して離縁になったといわれています。これまであまり語られてこなかったのですが、稲生盛右衛門さんは立派に復活して、稲生勘兵衛と名乗って子孫繁盛です。

九十九里町長の川島様は、稲生勘兵衛家と縁続きだそうです。伊能家には親戚として伊能七家といわれる名家が揃っております。本日は茂左衛門家、平右衛門家、彦作家、大作家、の皆様がお揃いで、三郎右衛門家の出で、七左衛門を継いでいる伊能洋さんを加えると、権之丞家以外はいみな揃いというようになります。

茂左衛門さんは、伊能辰郎さまとい

い、幕末に伊能家再興に努力された伊能節軒さんの家筋です。記念館の敷地に家がありました。現在喫茶店を営ん

でおられます。

平右衛門家は、当主の伊能栄一さま御夫婦で御出席いただきました。秋の佐原祭りの諏訪神社の宮司さんで伊能測量の図一幅を所蔵されます。(残念ですが、場所が特定できていません)彦作家の当主は伊能昇一さまで、奥さまの和子さまと御参加いただきました。元千葉コクヨの社長さんです。

大作家の伊能楯雄さまは、元成田空港公団理事、元伊能忠敬記念館館長です。

もうひと組、伊能洋さんの祖母「こう」さんの妹「ます」さんは、潮来の藤岡家に嫁入りしました。その藤岡家から当主の修二さんと従兄弟の洋一、峰夫さんの二方がお見えでした。

伊能研では、創業時の功労者・学習院名誉教授の斎藤先生が、出席され子孫紹介など担当していただきました。新沢さんには受付・司会で頑張ってもらいました。

また、深川の富岡八幡の伊能忠敬銅像制作者の酒井先生も御出席です。地元からは、県立佐原高校校長木村修先生、佐原高校同窓会長平山先生、地元のまち佐原青年会議所前理事長菅井康太郎さま、などが御出席でした。平山先生は歯科医で、平山郡蔵の末裔というごでした。

# 伊能忠敬の子孫ら集合

## 関係資料の国宝指定で

香 取

日本で初めて実測日本地図を作った江戸時代の測量家、伊能忠敬(1745-1818年)の地図、文書、測量器具など関係資料2345点が、昨年6月に国宝指定されたことを記念した催しが12日、香取市内であり、各地から子孫25人ほどが一堂に集まった。



伊能忠敬旧宅で記念撮影する子孫ら。前列左から3人目が伊能洋さん=12日午前、香取市佐原イ

主催した伊能忠敬研究会によると、子孫のいわゆる「総集合」は12年ぶり。忠敬から6代目の次男に当たる画家の伊能洋さん(76)「東京都世田谷区」は「子孫が一堂に集まるのはめでたいこと。国宝指定も最大の喜び。先祖の功績を多くの人に伝えていけたら」と語

った。子孫らは記念館の見学や、忠敬の遺髪と爪が納められていることで知られる鶴岡寺で墓参りをし偉業をたたえた。洋さんの長男、団体職員伊能亮さん(45)「同」は「大きな意味で、日本をつくった一人なんだなと感じた」と、墓前で静かに手を合わせていた。

忠敬の父、神保貞恒家の当主で、公務員の神保弘之さん(58)「横芝光町」は「(忠敬は)あらためてすごい忍耐力のある方なんだと思った」。忠敬のひ孫が嫁いだ高宮家(東金市)の保健師、高宮志織さん(33)「東京都練馬区」は先祖のゆかりの地を初めて訪れ「来るのができて感動しました」と話した。その後市内の式場で、忠敬のサイトを編集する戸村

今回の催しを紹介した「千葉日報」の記事(2011.2.13.)

伊能忠敬 1745(延享2)年、上総国山辺郡小間村(現九十九里町)生まれ。17歳の時に下総香取郡佐原村(現香取市佐原地区)の伊能家の婿養子に。家業を引退後、50歳で江戸に出て、幕府天文方の高橋至時(よしとき)の弟子となった。1800年から日本全国を歩き測量を実施。17年かけて実測地図「大日本沿海輿地図」(伊能図)を制作した。1818(文政元)年に73歳で死去。高橋至時の眠る東京・浅草の源光寺に葬られた。





伊能陽子さんの墓前に立つ木内志郎氏

## 大河ドラマの実現を 目指して四首長会談

祝賀会では、色々お願いの結果、香取市、東金市、九十九里町、横芝光町の四人の首長が揃うことになりました。

折角のこの機会に、祝杯だけでなく、伊能忠敬関連の自治体で官民一体となつてNHKに要望し、大河ドラマ「伊能忠敬」の実現を図る協議会をつくっては、という意見が有志の間で持ち上がりました。

香取市長と、香取市経済界の実力者千葉商船相談役の木内志郎さんの了承を得て、祝賀会開始前のわずかな待ち時間を利用して協議をおこないました。

各首長さんの御賛成をいただき、会長には木内志郎さんになつていただきました。

当面、地元の伊能市議、木内志郎さん、木内信次さん

と渡辺名誉代表が企画調整をおこなう予定です。

(木内志郎さんは従来から伊能忠敬研究会会員です。木内信次さんは木内志郎さんの親戚ですが、大河実現に意欲を燃やしておられる方です)

(渡辺 記)

## マスコミ各社の報道状況

NHKは記念館駐車場に中継車を設置して、東京のNHKからお昼のニュースで「国宝指定を記念し、子孫集合して祝賀会開催」と報じました。

忠敬墓参の場所、伊能洋さんが「資料を守り伝えてゆかないとならない」とコメントしました。都合で出席できなかった会員の西川治

先生(東大名誉教授)からお葉書がありました。

「大成功おめでとうございます。NHKのニュース拝見しました。少々体調を気遣い、折角の催しに参加せず、生涯の悔みとなりました。……」

共同通信はニュースを全国に流し、地方紙約三〇紙がWEBに掲載しました。二〇紙くらいは紙面にも掲載したでしょう。

東京版では日本経済新聞が社会面のコラム「窓」欄に掲載されました。読売、朝日、は千葉版で、また千葉日報も報じてくれました。

天候不良のもと、早朝から活動いただいた報道各社の関係者に、厚く御礼を申し上げます。

ちば 13版 2011年(平成23年)2月13日 日曜日 享月

### 伊能忠敬の偉業、国宝指定 子孫集い墓参り

江戸時代後期の測量家、伊能忠敬が日本全国を初めて実測測量して完成させた地図などが国宝に指定されたことを記念して12日、子孫らが旧宅のある香取市に集まった。子孫が一堂に集まるのは十数年ぶりという、墓参りするなどして先祖に思いをはせた。

昨年6月に国宝に指定されたのは、地図や文書、測量器具など345点。集まった子孫24人や関係者らは、地図などが展示されている伊能忠敬記念館を見学したり、旧宅を訪ね、記念撮影をしたりした。また、忠敬や7代目(76)の妻、陽子さんの墓前に手を合わせた。

東京市田舎区に住む洋さんは「我々の任務は忠敬先生の遺品を守ること。国宝になったのは最大の喜びであり、同時に誇りでもある。たまにこのような催しで(子孫

香取に24人



朝日新聞千葉版 (2011. 2. 13.)

伊能忠敬の墓に線香をあげ、手を合わせる子孫ら。香取市牧野の願福寺

### 我ら忠敬の子孫

#### 佐原の旧宅前でパチリ

測量器具など345点の資料が昨年、国宝に指定された江戸時代の測量家・伊能忠敬(1745〜1818)の子孫らが12日、香取市佐原地区に集まり、忠敬の墓参りをした。「伊能忠敬研究会」が国宝指定などを記念した行事を行うのに呼びかけた。忠敬は婿養子になってから隠居して江戸へ出るまでの約30年間を佐原で過ごし、同研究会によると、佐原に子孫が一堂に会するのは初めてだという。

読売新聞千葉版 (2011. 2. 13.)



◎江戸時代。の測量家、伊能忠敬の地図さん(51)は「私は40代や文書、測量器具など2で介護福祉士の資格を取ったが、50代で測量した受けたことを受け、子孫忠敬さんのDNAかも」。約30人と研究者ら約10人伊能の地図は海外でも写0人が12日、旧宅がある香取市に集まった。

日経新聞東京版 (2011. 2. 13.)



●経過報告

渡辺一郎名誉代表

「フランス中図の佐原招聘から」

完全復元伊能図フロア展まで」

祝賀会に先立ち、渡辺一郎名誉代表から本研究会の十五年間の活動についての講演があり、要旨が祝賀会でも紹介された。



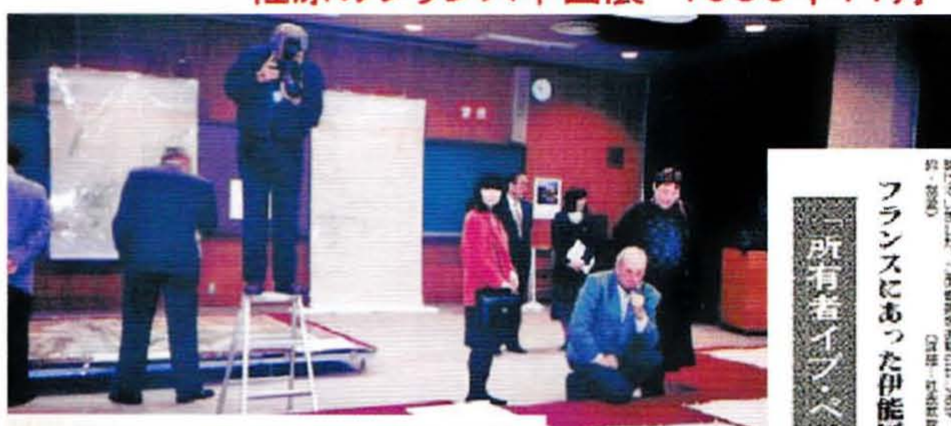
【スライド①】伊能忠敬研究会の渡辺でございます。

十五年前の一九九五年十一月十七日に佐原の中央公民館でフランス伊能中図の里帰り展が開かれ、三、三〇〇名もの多数の来場者がありました。この会はこの会をキッカに結成されました。

【スライド②】結成後まず仕掛けたのが江戸東京博物館への伊能忠敬展の提案でした。九六年八月に提案して十一月に内定をいただきました。朝日新聞と組みたいとお話で困りましたが、話が通じて、JWAの木谷様と朝日の清水健宇さんという方が見えました。伊能ウォークの計画を進めているので、協力してほしいとお話でした。

スライド①

佐原のフランス中図展 1995年11月



「フランス中図」は、江戸時代中期にフランスの探検家、イブ・ペイレ氏によって発見された、江戸時代の日本地図。この地図は、江戸時代の日本を正確に描き出しており、江戸時代の日本を知る上で重要な資料である。この地図は、現在、フランスの国立図書館に所蔵されている。この地図の発見は、江戸時代の日本を知る上で重要な資料であり、江戸時代の日本を知る上で重要な資料である。



スライド②

一絶やまぬ努力と天賦の才

# 伊能忠敬

江戸東京博物館1階企画展示室

1998年4月21日(火) → 6月21日(日)

開館時間 午前10時～午後5時 (水・金は午後5時まで)

休館日 毎月第1日、第3日、第5日、第7日、第9日、第11日、第13日、第15日、第17日、第19日、第21日、第23日、第25日、第27日、第29日、第31日

入場料 大人 500円、小人 250円、幼児 100円

観覧券 大人 1000円、小人 500円、幼児 250円

観覧券は、入場料と観覧料を合わせた金額です。

観覧券は、入場料と観覧料を合わせた金額です。

観覧券は、入場料と観覧料を合わせた金額です。

江戸東京博物館で伊能忠敬展開催

入場者111,399人  
開館5年目だったが、  
入場数第3位  
第2位はシーボルト展  
だった

【スライド③】勿論、御協力して検討が進み、一九九九年一月伊能ウォークが発売しました。名誉隊長は加藤剛さんと、本部長大内惣之丞さん、本席にお出です。私は本部隊員選考委員長と伊能ウォーク総隊長を務めました。

【スライド④】俳優座さんは、江戸博の伊能忠敬展、伊能ウォークの企画を聞いて、俺も前から考えていたのだと、途中から入ってきて三者協力プロジェクトとなりました。俳優座はウォーク中に新国立劇場で演劇をおやりになり好評でした。終盤になってから映画を発表されました。両方とも測量場面の指導

ポートと今回国宝指定された記念館の伊能大図六九枚の模写図のフロア展に大活躍をしていただきました。

【スライド⑤】俳優座さんは、江戸博の伊能忠敬展、伊能ウォークの企画を聞いて、俺も前から考えていたのだと、途中から入ってきて三者協力プロジェクトとなりました。俳優座はウォーク中に新国立劇場で演劇をおやりになり好評でした。終盤になってから映画を発表されました。両方とも測量場面の指導

俳優座の映画に先立って、NHKから二〇〇一年のお正月時代劇に伊能忠敬を取り上げるので、協力してほしいという依頼がありました。後から聞いたところでは、当時の鈴木市長がNHKの海老沢会長に頼んで実現したものだそうですが、当時は知りませんでした。主演の橋爪功さんにレクチャーのため京都に行ったり、江戸博物館長の竹内先生と脚本の読み合わせとか、測量現場の撮影指導に二〇日間も付き合いました。





私は実行委員会事務局長を務めましたが、二〇〇一年三月十五日

スライド ④

後援：伊能忠敬研究会、日本ウォーキング協会、佐原市



に關係者募金を決めて約六ヵ月で二二〇〇万円余が集まり、十月二〇日に、伊能洋さん監修、酒井道久さん制作の伊能忠敬銅像が、伊能測量出發地、深川の富岡八幡の大鳥居脇に建立されました。

伊能ウオークおよび地図測量關係諸団体の他、香取市、九十九里町、横芝町からも淨財のご寄付をいただきました。変ったところでは朝日新聞一〇〇万円のほか、読売新聞からも同額のご寄付をいただきました。これは大変珍しいケースだと思います。

スライド ⑤

伊能測量出立地・富岡八幡で  
2001年10月20日 除幕式



A group of five people, three men and two women, are posed in front of a large screen. The screen displays a portrait of a man with a white beard, likely a historical figure. The group consists of a man on the far left in a dark kimono, a man in the center with a white beard and a dark kimono, a man on the right in a dark kimono, and two women on the far right in light-colored kimonos. The background is a simple indoor setting with a wooden railing.

【スライド⑦】 そのつぎは、アメリ

時間的に伊能大図全部を調べられないので、他日を期して図書館を去り、国土地理院で参事官だった星埜さんに相談して調査団を作りました。六月十八日再度訪問、一週間かけて全図を確認し七月五日新聞発表しました。朝日は一面トップ、読売は社会面の半分以上をさいて報道しました。

【スライド⑦】 そのつぎは、アメリカ







## スライド ⑨



「伊能大図」つながった  
最後の1枚発見

朝日社会面から



大型  
取材  
陣



ただきました。京都国立博に寄託される予定で、現在大谷大学に暫定寄託中です。

【スライド⑨】それにしても、大図はアメリカに二〇七枚、国内に三枚はわかりましたが、どうしてもあと四枚不足です。あれこれ迷いましたが、孫写しであるため、調査対象でなかった海上保安庁の伊能大図を、鈴木純子さんと、あらためて調べました。そうしたら形はえらく違うが、原図は伊能図という四枚を発見、二一四枚全部が揃うことになりました。二〇〇四年七

## スライド ⑩

伊能大図総覧を刊行 2006年  
海上保安庁の伊能図を全数調査2007年

アメリカ大図展の一環として豪華本の記念出版を意図したが、手を挙げる社はなかった。  
河出書房・日本地図センター共同出版に漕ぎつけ1部20kg  
定価399,000円、の豪華本300部を1カ月で完売した。



月一日、海上保安庁と国土地理院の係官陪席のうえで、伊能忠敬研究会から記者発表、大ニュースになりました。

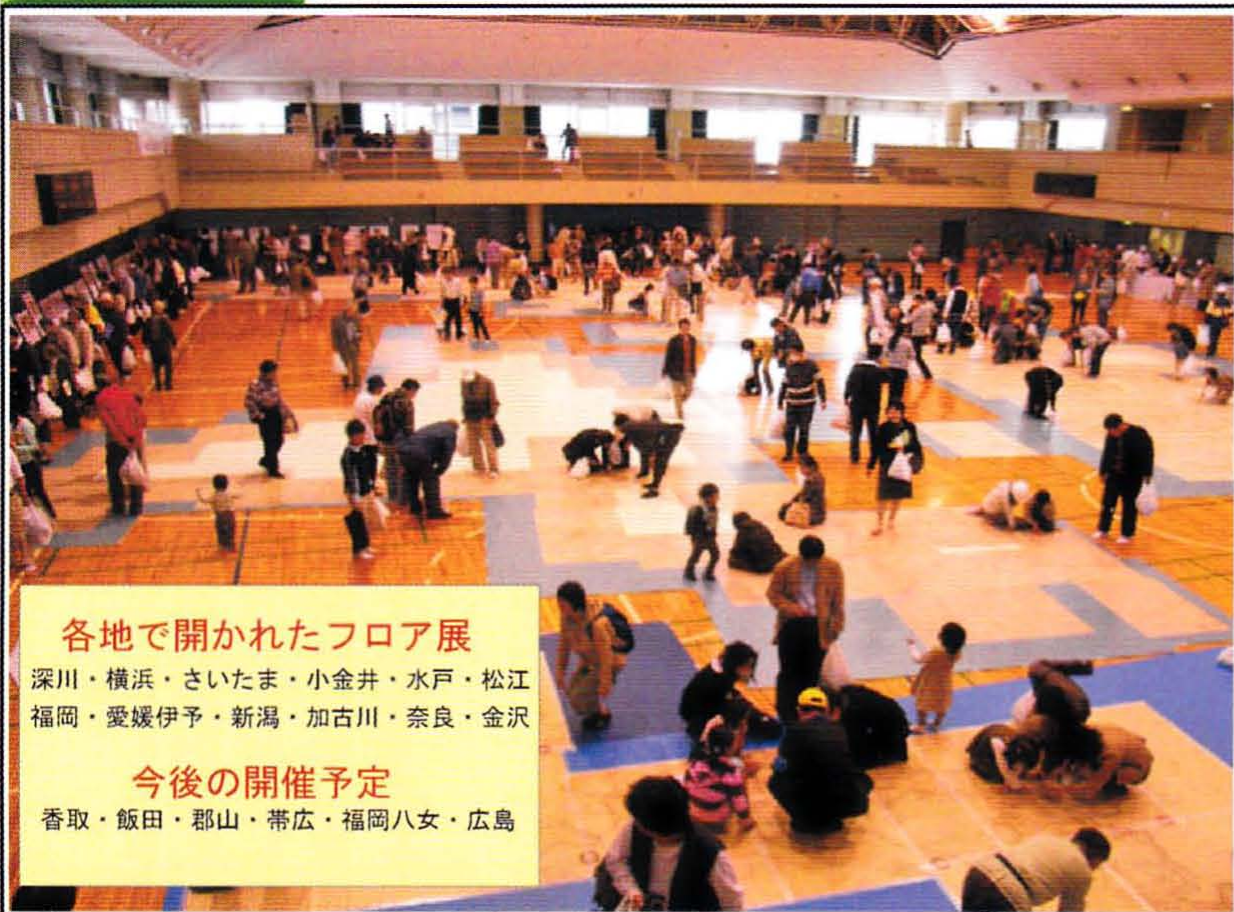
【スライド⑩】二〇〇六年十二月には判明している国内外の優良な最終版伊能大図を集成した伊能大図総覧を刊行。二〇kg、三九九、〇〇〇円の大冊ですが、一カ月で完売し、購入者の六〇%は個人でした。そのあと本冊をベースに海上保安庁が保有する伊能図写し一四七枚を全数調査し、三枚の優秀な模写図を発見しました。

【スライド⑪】二〇〇八年から第二次伊能ウオーク計画にに合わせて、完全復元伊能図フロア展を計画しました。第二次伊能ウオークはウオーク日本一八〇〇に変身、フロア展用復元図は私が監修して二〇〇九年に完成し、これまでに十二カ所でフロア展を催行しました。観客の声は、伊能忠敬はよく知っているが、これほどの大仕事をしたとは知らなかった、という者が大部分です。香取市では三月二五日から三日間、中央体育館で開催予定です。是非ご観覧ください。

話が出ていることは二〇〇四年あたりから聞いていましたが、まさかと思っていました。それが堂々たる正式決定です。まことにおめでとうございます。

忠敬さんは、演劇、映画、お正月時代劇から国宝まで上り詰めました。あとは、大河ドラマ位しか残っておりません。地元関係市町連携して、伊能忠敬にゆかりの自治体と地域住民に呼び掛け、全国的ネットワークにより実現したいと考えます。皆様のご協力をお願いします。

## スライド ⑪



各地で開かれたフロア展

深川・横浜・さいたま・小金井・水戸・松江  
福岡・愛媛伊予・新潟・加古川・奈良・金沢

今後の開催予定

香取・飯田・郡山・帯広・福岡八女・広島



## 「伊能忠敬の長女・お稲の血筋についての新事実」



「伊能忠敬と伊能図の大事典『Inopedia』と題するホームページの編集幹事をしている筆者は、『伊能忠敬研究会報』に掲載されている史・資料を、ホームページのコンテンツとしてアレンジする作業を日常的におこなっている。

したがって伊能測量の後半における忠敬の長女お稲の活躍はよく承知しているが、夫・盛右衛門亡き後の自らの家庭についての話題が伊能忠敬研究会報に登場することが少なく、不思議な感じを持っていた。

ところが偶然、研究会報第82号に掲載の記事「伊能忠敬周辺の人々(執筆・加藤時男)」の中に筆者の高校時代におけるクラスメイトの生家の名前が登場したのでビックリし問い合わせると共に、周辺資料を調べてみたところ、意外な事実がわかったので報告する。

## 「伊能忠敬周辺の人々」(抜粋)

「高宮家は大谷亮吉著『伊能忠敬』などにより、忠敬の孫二人(稲の娘)が相ついで嫁いだとされる家である。はじめ妹の秀が嫁いだが早逝したため、後に姉の折枝(婚家先で夫をな

第二部の講演会では、『Inopedia』編集幹事の戸村茂昭氏からお稲さんの血筋に關して新事実に基づく興味深いお話があった。

くしていた)が再婚したと云われている。高宮家御当主からの伝聞によると、折枝が再婚の際に持参したとされる「茶道具」や「服紗」も保管しているとのこと。また仏壇には姉妹の位牌と、更に御当主並びに推定する女性二人の戒名が併記された次のような位牌もあった。

如実院妙柏日真信女

弘化二年 三〇才

高宮家五代当主

徳見院是相日項信士

明治十四年 七四才

徳実院妙功日柏信女

明治十三年 六九才

しかし、位牌に刻まれている歿年並びに年令から推定して、この二人を稲の娘とするには疑問が残る。…(中略)…

なお、昭和十二年に忠敬の生地、九十九里町小関に徳富蘇峰の筆になる「伊能忠敬出生の地」と刻まれた記念碑が建立されているが、碑の側面には賛助者として、千葉市稲生勘兵衛と東金町 高宮三雄という二人の名が伊能家姻戚として刻されている。高宮三雄とは高宮家先代であり、その名前が記念碑に刻されていることから高宮家と忠敬に由縁のあったことは間違いないさそうである。」

この記事において、位牌の歿年・年令から推定してこの二人を稲の娘とするには疑問が残るというくだりに引かかるものを感じ、調べた結果が本稿である。

一 既存の資料等における伊能忠敬と高宮家との由縁に関する記述の再確認  
 一 「伊能忠敬先生出生之地」と刻まれた記念碑側面の碑文



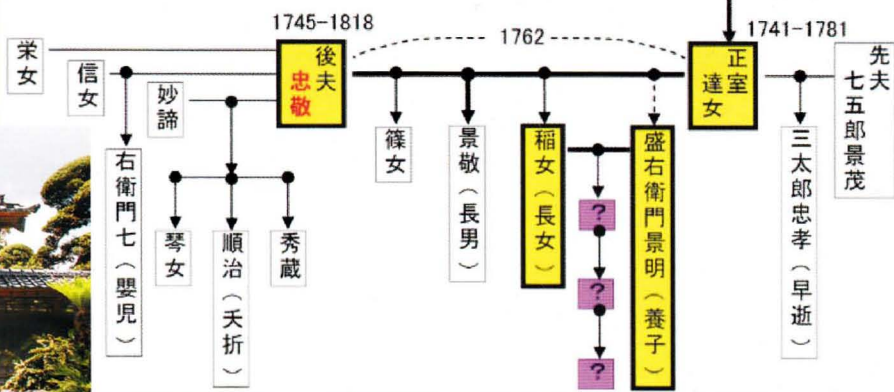
建設	片貝町
賛助	伊能家姻戚
	千葉市 稲生勘兵衛
	東金町 高宮 三雄

図1 伊能忠敬記念講演の記念碑と側面の刻字



# 伊能忠敬の家族構成

源六三郎左衛門家



高宮家(東金市)



伊能忠敬の家族構成(上)と  
稲女勘当罷免状の発見を報じる新聞記事(下)

2002.5.25

## 忠敬の自筆メモなど発見…裏付け

### 「伊能地図」唐津藩にも

## 長女の勘当も証明 論争に決着

日本初の実測全国地図を江戸時代に作った開闢者、伊能忠敬の民間研究グループは、二十四日までに、忠敬自筆の新たなメモと書状の存在を確認した。これまでに知られていなかった唐津藩(佐賀県)に納められた地図の存在を裏付ける記述や、二子孫の勘当(家系)を決定させる書状も含まれており、研究者たちは、忠敬研究を、歩を進める重要な新発見と評価している。

発見したのは東京都内の伊能忠敬研究会、大阪市内の古書店に保管されておられ、所有者は口頭で知られていた。研究グループは、忠敬の親類から弟子が譲り受けたもので、忠敬が「一八八〇(文政三)年に亡くなる数年前のもの」と推定。唐津藩(長崎県)から九州地図の製作を頼まれたが、金額が折り合わないで断られたとされている。忠敬の地図は、幕府と伊能家との関係、研究の経緯、一部代表理事によると、内々には平戸藩(長崎県)と関係が深い。その関係がわかっていくが、その交渉経緯の資料は珍しい。メモには「指示金額が唐津藩の地図より安い」とも記されており、研究グループの調査委員は「忠敬の地図が唐津藩にも納められたことが新たに判明した」と語る。

一方、書状は「一八〇〇(文化七)年十一月十五日、九州唐津藩中に伊能忠敬門下八人あてに書かれた。勘当した長女の稲女が夫を亡くし、病身の上、

「伊能忠敬」に記述された唐津藩の地名は、忠敬が1745年に唐津(千早)に生まれ、家系の調査などを行っていたが、50歳すぎで幕府大官に入門。1800年に北海道から九州まで全国の測量を開始し、幕府の援助を受けた測量は1815年に4月4日00時を過ぎた。

新たに発見された伊能忠敬自筆の書状(上)とメモ

参考 お稲勘当の一件

忠敬長女お稲は一度勘当されたと言えられてきたが、証拠はなかった。ところが、お稲の勘当赦免状が大阪の古書市に出た、という知らせをうけて驚いた。産経新聞社会部の伊藤記者に飛んでいただいて、原文の入手ができた。伊藤栄子さん、故安藤由紀子さん、故伊能陽子さん、などベテランが分析して本物と判断できたので、記事にしてみました。沢山の札があったが、指値が高くて落ちなかったという。現在の所有者は分かっている。

(渡辺一郎 記)

「(の)記念碑(図1参照)は何度も見ていたが、記念碑の側面にこういう名が刻されているとは思いませんでした。稲生勘兵衛はお稲の夫盛右衛門の家系である。また、高宮三雄とは友人の家の先代の当主で父上であるという。

なお、この碑は一九三六年(昭和十一)当時の片貝町長及び伊能忠敬研究家の中村城氏を中心となり、この地区の出身で中央の各界に多数の知己を持つていた久我貞三郎が徳富蘇峰に依頼した書跡を刻して建立したものであるという。

一一 先行資料での記述

①明治四四年多田屋書店発行、加瀬宗太郎編纂『偉人伊能忠敬』

「忠敬に四男三女あり、…(中略)…長女伊能氏の出、上総の国山辺郡片貝村の姻戚布留川某の男景明(通称を盛右衛門)というを養ひてこれを配す。

後ち故ありて景明通称を加納三郎兵衛或は三郎治と改め、夫婦片貝村に移住せしが、景明歿後家に帰り剃髪して妙薫と号せり…」とあるが、お稲の子孫に関する記述はない。

②大正六年岩波書店発行、大谷亮古編著『伊能忠敬』

「長女稲は伊能盛右衛門の妻として二人の女子を挙げたり。而してその次女は上総国山辺郡押据村の高宮某に嫁せしが幾もなくして病没したるを以て長女後配としてこれに代わり数人の子女を生みたり。されば忠敬の女系は今猶ここに伝ふるなるべし。

又盛右衛門の後は稲生勘兵衛なるものこれを承け其後下総国千葉町に往せしが勘兵衛は単に盛右衛門の家名を継続したるに止まり稲女と血縁あるものにあらざればここには却つて毫も忠敬の血統を伝ふる所なし。

…中略…(以上、伊能源六及妻の見聞実談)とある。

③昭和三二年発行 平 柳翠著『偉人伊能忠敬とその子孫』

「長女妙薫稲女は一七六三年の宝暦十三年に生まれ、父忠敬翁の実家である神保家の姻籍に当る山辺郡川間村(今の千葉県山武郡九十九里町片貝)の布留川弥兵衛の三男小野八を入婿婚姻し、盛右衛門景明と名乗らしめて江戸小網町





図2 高宮家五代目当主夫妻の墓石

五歳で歿し、  
●二代は一八一六年の文化一三年閏八月六日に歿し、その配は一八三五年の天保六年二月二五日に歿し、

●三代勘兵衛は山

に分家して米穀商を営みしめた。後、盛右衛門景明と稲女は故郷片貝に帰り、盛右衛門景明は稲生三郎治富家(三郎兵衛とも称した)と名を改め加納屋という米穀商を営んだ。

盛右衛門景明は稲女との間に長女折枝、次女秀女を挙げている。盛右衛門景明は一八一〇年の文化七年に行年五五歳で没した(蓮克院景明日徳信士)。その時点で稲女は剃髪して妙薫と称し、佐原へ戻って甥の忠誨の慈母の後見者となると共に、父忠敬翁の測量製図の助手でもあった。一八二二年の文政五年

稲女改め妙薫は佐原で没し佐原の観福寺に葬られた。なお観福寺の墓石とは別に片貝の墓地にあった夫盛右衛門景明の墓石にも「華光院妙薫日明信女」と妙薫の戒名が併刻されている。

盛右衛門景明のその後の家系を墓石の情報などから調べた結果はつぎのとおりである。

●初代(盛右衛門景明(稲女の亭主))は一八一〇年の文化七年に五

島家には高宮家三代目当主の次女であると同時に折枝・秀女の夫である高宮家五代目当主の叔母にあたる人が嫁していることがその後の調査で判明した。

●四代勘兵衛は一八九九年の昭和十四年十二月二二目に没した。出生地の建碑に拳金している。

而して妙薫稲女の息女は共に上総国押掘村の庄屋高宮藤右衛門広成に嫁し現在までその血流は続いている。」とあり、位牌などによって把握したお稲の子孫に関する系譜を記述している。

## 二、伊能忠敬との関係について の高宮家の認識

友人宅を訪問し「やあ、めずらしい。よく此処が分かったね」との挨拶に続いた旧交の会話の後、訪問の

趣旨を述べると、「うん、俺んちは伊能忠敬の末裔だから、お前たち(友人の兄弟姉妹たち)はご先祖様の顔に泥を塗るようなことをしてはならないぞ、とオヤジや祖母等から聞かされてきた。…」と語り、伊能忠敬と友人の生家との間に由縁があることを明確に認識していた。(高校時代は座席が隣同士だったにも拘わらずそのような話は聞いたことが無かった。)また、次のような出来事があったという伝承がある。

高宮家五代目当主の継室の折枝が亡くなった夜、佐原では、長押の所に花嫁装束の折枝の姿が現れたという。それを見た佐原の人たちは、折枝に何かあったに違いないと話し合っていたところ、折枝の亡くなったことを知らせる早馬が到着したという。

また、高宮本家の当主宅を訪問したところ、床の間には伊能大図総覧が立て掛けられていた。更に、高宮家五代目当主継室の折枝さんの帷子や「…姑稲生…」と表現された高宮家六代目当主追悼掛け軸などが大切に保管されていたり、三人のお子さん(三姉妹)の名前には忠敬の「敬」や勘解由の「由」や折枝の「折」の文字をつけるなど忠敬との由縁に敬意を表して

いる様子が感じられた。

## 三、疑問点解明の現地調査

### 三-1 高宮家の墓地の調査

友人が認識していた高宮家の伝聞や大谷亮吉著書の記述や生誕地公園の碑文などから、「高宮家は伊能忠敬の血統を受け継いできた末裔である」ことは確かかなようである。「位牌の歿年、年令から推定して、この二人を稲の娘とするには疑問が残る」という点について、更に調べて見ることにした。

高宮家の墓地は東金市押掘にある最教寺(顕本法華宗)で、境内の向かつて左に高宮家の墓地があった。問題の戒名を記した墓石は高宮家墓地内の右側にあり、正面の左下隅に、前記「伊能忠敬周辺の人々」に明記の戒名と同じ戒名(但し、秀の戒名が一字だけ相違「柏↓相」していた)が彫られていた。

墓石に刻まれていた歿年月日は次の通りであった。(図2参照)

如実院妙相日真信女

弘化二年正月二七日

徳見院是相日巧信士

明治十四年七月十一日

徳実院妙功日相信女

明治十三年三月二日

戒名と歿年月日だけでは疑問点を解明できるデータにはならないので、石の側面を見たところ「秀」「折枝」及び高宮家五代目当主藤



右衛門広成に関して詳しい「墓誌」が刻まれていた。(図3参照)

〔墓誌解読結果〕

同郡片貝邨稻生勘兵衛三女秀嫁  
于高宮辰治郎弘化二年正月二七  
日嬰病歳三十而歿有一女亦早世  
也

高宮廣誠五男幼名辰治郎後称藤  
右衛門廣成歳三十七而亡妻其後  
娶其姉析枝生嫡子辰治郎明治十  
四年七月十一日以壽卒齡七十四  
同郡片貝村稻生勘兵衛長女通称  
折枝初嗣稻生保家不幸為寡後江  
戸及妹秀女喪改嫁高宮廣成明治  
十三年三月二日病没壽六十九季  
依遺言葬于新墓

家翁在之日遺稻生某於水戸購墓  
石一基以當碑材然而翁之病終不  
起以故予不肖繼其遺志築累世之  
法号及築累於一石以為墓誌

惟明治十四年十一月上総国山辺  
郡押掘村高宮辰治郎清誠

この墓誌の記述によつて、お稲の

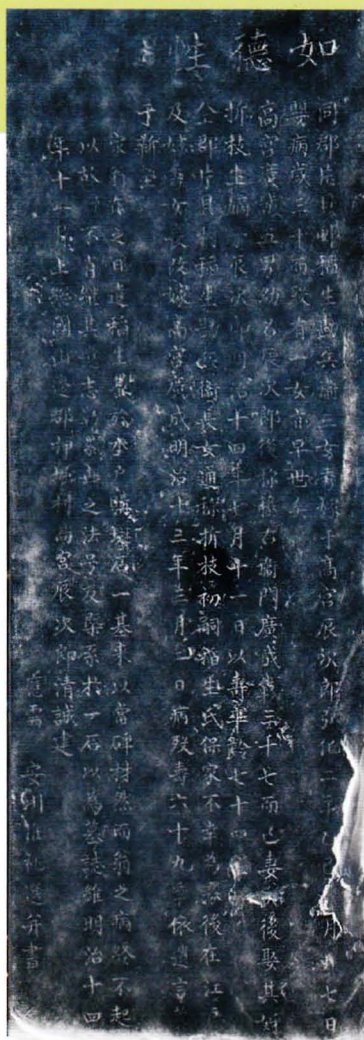


図3 高宮家五代目当主夫妻の墓誌



図4 盛右衛門・お稲の墓石

や新たな事柄が次のとおり判明し  
た。

①「秀」と「折枝」は「稲女の娘」では  
なく、「稲生勘兵衛の娘」という表  
現であつたこと、

②「秀」は次女でなく三女であつた  
こと、

③「秀」は三十歳で亡くなり、その  
時、夫の年齢は三十七歳だつたこと、

④「折枝」については、より具体的に  
次のような興味深い生涯であつたこ  
とが判明した。

〔折枝に関して墓誌が語っている事  
柄〕

・「初嗣稻生保家」＝初め稲生家を

・「及妹秀女喪改嫁高宮廣成」＝高  
宮家に嫁していた妹の秀女が亡く  
なるに及び改めて高宮廣成の嫁と  
なつた。  
・「病没壽六十九季依遺言葬于新  
墓」＝六十九歳で亡くなり、遺言  
に依つて高宮家の墓とは別の墓にも  
葬つた。

三二 稲生家の墓地の調査

次に稲生勘兵衛家の墓石を探し  
た。前掲の『偉人伊能忠敬翁とその  
子孫』から現存す

る稲生勘兵衛家を  
突き止め、子孫の  
方の情報から千葉  
市にある本敬寺常  
光閣に存在してい  
た稲生勘兵衛家の  
墓所で次のように  
確認できた。

●初代盛右衛門景  
明・妙薫の碑文

図4に掲載の画  
像が伊能盛右衛門

景明・妙薫の墓石であり、その碑文  
(戒名)は次のように解読できる。

蓮克院景明日徳信土  
華光院妙薫日明信女

この墓石は当初は九十九里の北  
増南にあつたもので、昭和四〇年ご  
ろ、五代目稲生勘兵衛さんが千葉  
の菩提寺に移転したものであるとい  
う。不思議なことにこの墓石には二  
代目稲生勘兵衛夫婦の戒名も側  
面に刻まれているが、盛右衛門景  
明・妙薫の場合は歿年が刻まれてい  
ない。また、妙薫は盛右衛門景明の  
歿後十二年後に歿したにもかかわ  
らず戒名の刻み方には筆跡も配置  
も同時期に歿したかの如く整然と  
揃っている。

●二代目稲生勘兵衛夫婦の墓の碑  
文

図5の画像は盛右衛門景明・妙薫



図5 二代目稲生勘兵衛の墓石



図6 三代目稲生勘兵衛の墓石



の墓石の向かつて左側面に刻まれている二代目稲生勘兵衛夫婦の碑文で次のように解読できる。

福相院法規日身信士

文化十三年八月

偏照院妙身日個信女

天保六年二月

残念ながら歿年齢が刻まれていないため、生まれた年を解明することとは不可能である。

●三代目稲生勘兵衛夫婦の墓の碑文

図6の画像は同じ墓所の向かつて左側の奥に存在する墓石に刻まれている三代目稲生勘兵衛夫婦の碑文で次のように解読できる。

清浄院法定日勤居士

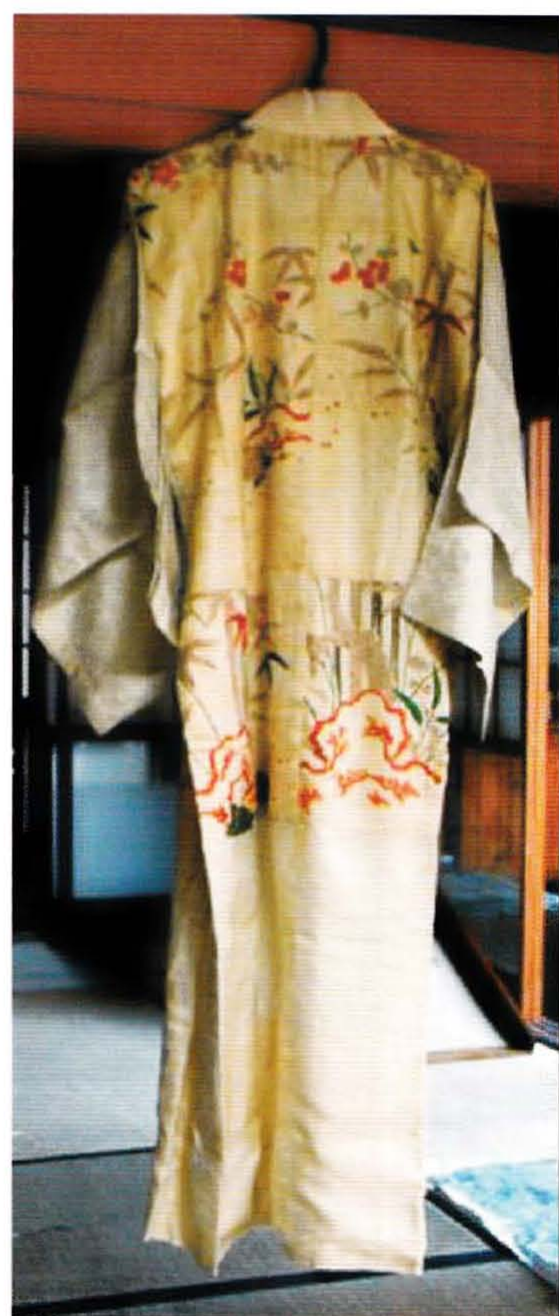
正清院妙法日孝大姉

なお、これら稲生家の墓石で気付いたことは戒名の格に差があることであつた。三代目勘兵衛夫婦の場合「居士・大姉」であるのに比し、初代及び二代目の戒名は格下の戒名とされる「信士・信女」であつた。これは三代目勘兵衛夫婦が両養子であつたことから、多分、実家における戒名の格に合わせたものであろう。

#### 四 考察

##### 四―一 折枝・秀の出生年

墓誌に刻まれた歿年と歿年齢から姉妹の生まれた年を計算すると以下のような結果となる。



●秀Ⅱ稲生勘兵衛三女 如実院妙相日真信女 弘化二歿（一八四五）・三〇才・ $1845-30+1=1816$ 生まれ

●折枝Ⅱ稲生勘兵衛長女 徳実院妙功日相信女 明治十三歿（一八八〇）・六九才・ $1880-69+1=1812$ 生まれ

墓誌に刻まれている数字の検証のため「秀」と「折枝」の夫である藤右衛門の数字（歿年一八八一、歿年齢七四及び「秀」をなくした時の年齢三七）から墓誌の記述の信憑性を確かめると

●藤右衛門 明治一四歿（一八八一）・七四才・ $1881-74+1=1808$ 生まれ・ $1808+37=1845$ ・一八四五（弘化二）で秀の歿年に合致するので、墓誌の記述は信憑性が高いことが裏付けられる。

##### 四―二 折枝・秀の両親は？

一方、伊能忠敬、伊能盛右衛門景明、伊能稲の生・没年に関する

数字は

・伊能忠敬 一七四五年Ⅱ延享二  
一八一八年Ⅱ文政元

・盛右衛門景明 一七五五年Ⅱ宝  
暦五一八一〇年Ⅱ文化七

・伊能 稲 一八六三年Ⅱ宝暦十  
三一八二二年Ⅱ文政五

とされている。

これらのデータから

折枝の生まれた一八二二年 稲は四八歳 盛右衛門は既に故人

秀の生まれた一八一六年 稲は五二歳 盛右衛門は既に故人

という関係になり、秀と折枝が稲の娘（忠敬の孫）ということは物理的に成立しない。

一方、盛右衛門景明・妙薫の実子に関する具体的な史実は残されていない。稲が妊娠していたらしいことを暗示する史料が忠敬の畏友である飯高惣兵衛の書簡に見えるのみである。二代目勘兵衛の歿年が文化十三年八月（一九一六）、妻の歿年が天保六年二月（一八三五）

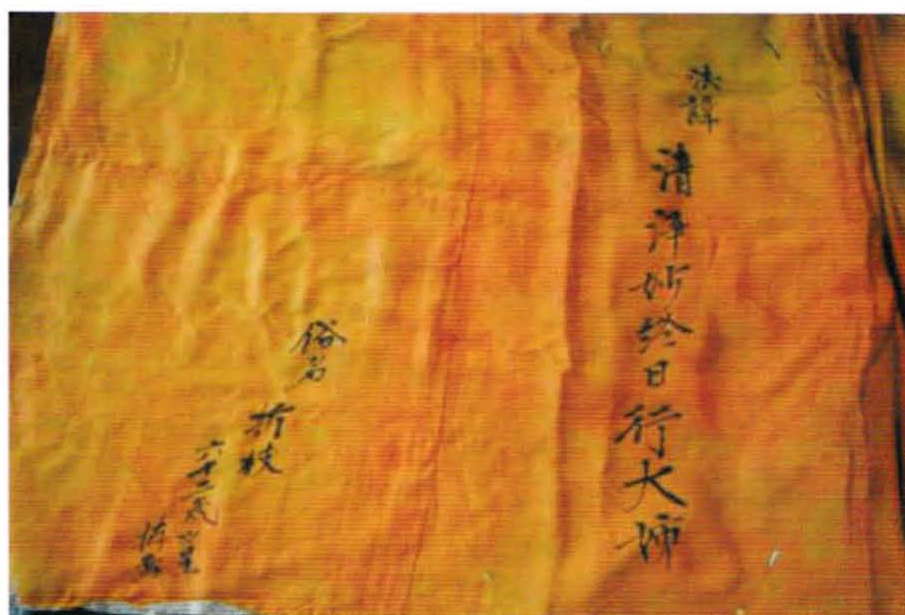


図7 折枝の帷子

であるから、姉妹を生んだ年代には生存していたことになる。折枝・秀の親は稲ではなく二代目勘兵衛夫婦とするのが妥当なようである。

#### 五 その他

五―一 高宮家に遺る折枝が残した帷子の謎

高宮家には折枝の帷子が残されている。（図7参照）

この帷子に墨書されている戒名は高宮家の墓石に刻まれている戒名と異なっており、むしろ折枝の先夫といわれている直江一修の墓石に併刻されているものと同一である。これこそは墓誌に残された**依遺言葬**、**新墓**を裏付ける証拠物件に違いない。『偉人伊能忠敬翁とその子孫』によれば、折枝は高宮家の後配



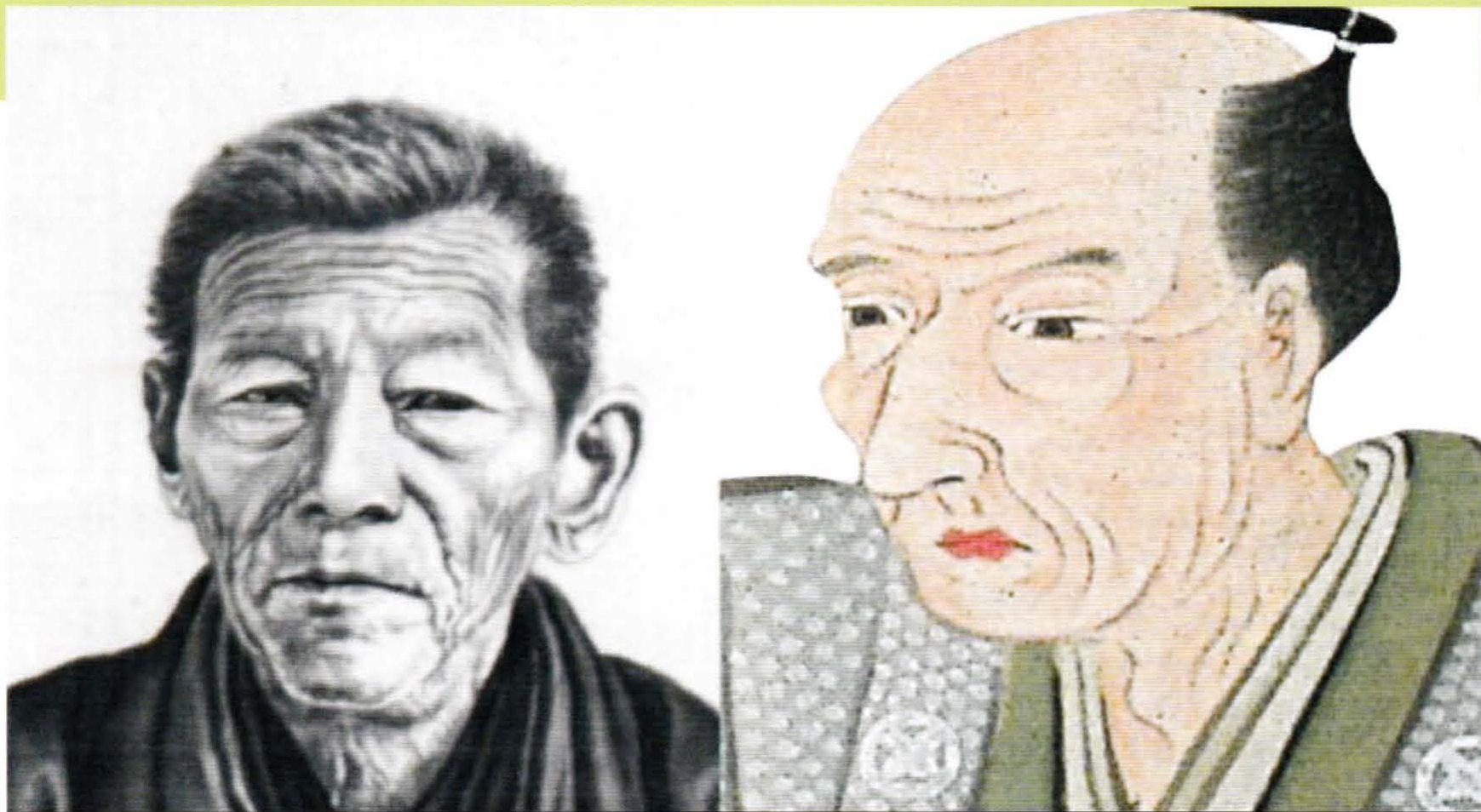


図8 忠敬翁と曾孫・辰治郎の肖像画

に入る前、江戸の幕臣直江一修に嫁したという。直江一修は後に九十九里の中里で医業に従事し、天保十五年（一八四四）四九歳で歿したという。秀女の歿する一年前であった。直江一修と折枝の間には児はなかった。

五二一墓誌に記された折枝の生涯の意味するところ

盛右衛門景明の家系は前述のとおり三代目勘兵衛が両養子であったという。なぜ稲生家は両養子を迎えざるを得なかったのか？

高宮家の墓誌には、折枝について次のような興味深い記述が目につく。

#### 初嗣稲生保家不幸為寡 後江戸：依遺言葬于新墓

このような墓誌を敢えて残した背景を想像してみる。折枝は自分の波乱万乗の生涯を生前折りに触れて家族（夫の藤右衛門や実子で墓誌を創立した辰治郎）には話していた筈である。そのことを子孫に伝えるため墓誌に残そうとしたのではないだろうか。

家翁在之日遣稲生某於水戸購墓石一基以當碑材然而翁之病終不起以故予不肖繼其遺志築累世之法号及築累於一石以為墓誌という極めて積極的な意思を含んだ表現の墓誌はまさにその目的のためであつたようにしか解釈できない。こ

の文言の意味は次のように解釈できる。

折枝の夫の藤右衛門は生前に叔母が嫁して姻戚となっていた川島家から稲生家に養子に入つた三代目稲生勘兵衛に命じて、墓誌建立にふさわしい石材を購入させた。

実際にこの墓石は拓本をきちんと採取できる良質な石材で出来ている。

その波乱の生涯とは次のとおりだった。

#### 初嗣稲生保家

秀女が一歳、折枝が五歳のとき、姉妹の父親である二代目勘兵衛が歿したことから稲生家としては家名（勘兵衛家）を保つ必要性から取り急ぎ長女の折枝を家長として届け出た。この結果、折枝は僅か五歳で稲生勘兵衛家の家長になった。

#### 不幸為寡

家長になった折枝には許婚が居たのであろうか、不幸にしてその許婚が若死にしたらしく折枝は実質的に寡婦となつてしまった。

#### 後江戸

傷心の折枝は江戸に出た。その江戸で幕臣直江一修に嫁すことになった。そこで家名（勘兵衛家）を保つ必要から妹の秀が嫁していた高宮家の姻戚でもあつた川島家の子弟の一人を養子にして稲生家を相続さ

せた。

#### 及妹秀女喪改嫁

その直江一修は不幸にも四九歳（折枝二三歳の時）で歿してしまつた。更にその一年後、高宮家に嫁していた妹の秀も病で歿してしまつた。妹には六歳になる雅女という名の幼子が居たのでその養育のため、自分が改めて高宮家に後配として嫁することになった。

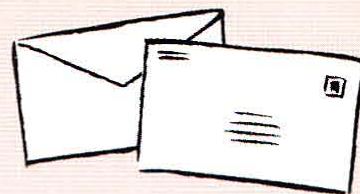
#### 依遺言葬于新墓

後年、折枝は六二歳のとき、直江一修と夫婦であつたことの証として帷子を作り、直江家としての戒名を墨で書いて直江一修の墓参りをし、その墓石に自分の戒名を刻んだ。

#### 五二二「DNA」からの考証

図8に掲げる画像は、左が折枝の長男の辰治郎の肖像画であり、右は先刻承知の忠敬翁の肖像画である。頬骨の張り方、額の皺の形、高い鼻梁など似ていませんか？





会員便り

## 研究会十五周年に際して

伊能 洋



伊能忠敬関係資料の  
国宝指定祝賀、及び伊  
能忠敬研究会創立十五  
周年の佐原での催しは、  
前目の春の大雪などあ  
いにくの悪条件が重なりま  
したが、百人を越す参加者  
を得て関係者一同胸をな  
でおります盛会となりました。

午前十時から旧宅書齋前  
で孫ら集合の記念撮影が  
あり三十名ほどが並びまし  
た。NHK他各新聞社の取  
材を受けた後、観福寺の  
忠敬墓所と陽子の墓参に  
五十名ほどの方が参加し  
て下さいました。私もほ  
そその対に追われました  
が、時ならぬ賑わいに陽  
子がびっくりするやら恐  
縮していたに違いありま  
せん。今にも雪になりそ  
うな寒さの中で、誠に有  
難く嬉しいことでした。

正午には潮来大橋のたもと  
にある開花亭に移動し、  
午後の講演会、懇親パ  
ーティーなどがほぼ予  
定通りに進行することが  
出来ました。

香取市長始め、来賓、招  
待客の殆どの方が出席  
されて賑やかな会とな  
ったのはご同慶の至り  
でした。ひとえに忠敬先  
生のご遺徳によるもので  
ありましょう。私のご  
挨拶でも申しあげたこ  
とですが、今日のこの席  
に佐久間達夫先生、安  
藤由紀子さん、そして  
伊能陽子の三名の創立  
メンバーが一挙に欠け  
たことが何よりも残念  
でした。陽子が居ました  
ら、受付で嬉々として  
遠く

の研究会の皆さまをお  
迎えしていたのに違い  
ありません。

さて今回の催しでは高  
宮氏、神保氏、奥永氏  
など忠敬の血縁に連な  
る方々も大勢参加され  
ましたが、私は直系の  
子孫の一人として、子  
孫たるものの任務は  
第一に忠敬先生の遺  
徳を後世に広く伝え  
顕彰すること、第二に  
遺品、遺作の散逸を  
防ぎ、埋もれたものの  
発見に努めること、  
第三にまだまだ不明な  
点の多い忠敬関連の研  
究を深め、忠敬学をさ  
らに究めて行くことに  
あると考えています。

いやしくも子孫と称し  
て自分の売名や、事業  
に利するなどの行為が  
あってはならないと常  
々自らを戒めておりま  
す。本日のような機会  
を得て、大勢の縁者の  
方々とも手を携えて忠  
敬先生の顕彰に務める  
ことが出来るなら、こ  
んな嬉しいことはありません。

最後になりましたが、今  
回の大きな催しの実現  
に献身的に働いて下さ  
った香取禧良支部長始  
め、佐原支部の皆さま  
に厚く御礼申しあげ敬  
意を表する次第です。

\* \* \*

この稿を発送する直前  
になって思いもかけな  
い東日本大震災が発生  
いたしました。被災の方  
々には心からのお見舞  
いを申し上げます。

佐原でも予想外の被害  
がありました。方々から  
連絡が入りましたので  
ご紹介申しあげます。  
記念館の青本司学芸員  
から頂いたお知らせで  
は、忠敬旧宅の店舗部分  
の屋根瓦が大部分落下  
したことが、幸い書齋、  
土蔵は無事

## 東日本大震災で 旧宅も被災！

だったとのことです。記念館も  
当分休館の由。  
元記念館館長、伊能楯雄さん  
からは何枚かの写真が届きまし  
たが、メインストリートの正文  
堂、小堀屋、福新呉服店、正上  
など旧家の全ての瓦が落下。旧  
宅の前を流れる小野川も一部で  
石垣が崩れ、液状化現象で川底  
が隆起するなどの惨状に息を呑  
みました。  
観福寺も見廻って下さいまし  
たが、三郎右衛門家では忠敬先  
生のお墓は無事で数基が倒れた  
程度で済んだようです。  
東北のことを言えば贅沢は言  
えませんが、小江戸と呼ばれた  
と、忠敬旧宅の修復が一日でも  
早く進みますように  
祈るのみです。  
それにしても十五  
周年の行事はま  
さに一ヶ月前のこ  
とで、万一大震災  
に会っていたらど  
ういうことになっ  
ていたでしょうか。  
十五周年の記念  
号に佐原のこのよ  
うな現状をご報告  
することはなろう  
とは夢にも思わな  
かったことです。



▲屋根瓦の大部分が落下した忠敬旧宅



液状化で河床が  
上がった小野川

(写真提供：伊能楯雄氏)



### ▲ 井上康子さんからの葉書

「会費納入済で欠席された方、名簿  
出席会員への報告通信を受けて」  
「前略 早速に伊能研十五周年  
記念佐原集会の事、細かな御知  
らせを賜り、恐縮至極に存じお  
ります。DVDまで添えていた  
だき、早速、聞かせていただき  
ました。好い記念歌が出来、御  
同慶に存じます。」  
「あらためて、十五年の歴史を想  
い、渡辺様はじめスタッフの皆  
様の御苦勞をしみじみ感じ入り  
ました。陽子（昨年なくなつた  
故伊能陽子さん）が生きていた  
らと、残念でなりません。私も  
是非参加させて頂きたかったと  
悔みますが、高齢には勝てませ  
んでした。悪しからず、御許し  
の程願ひあげます。」  
「家族からも、くれぐれもお詫

井上靖子

●直江泰子さん（伊能家縁戚、筑西市在住）

「梅の季節、水戸の偕楽園は今が盛りでございます。研究会誌楽しみに拝読いたしております。祝賀パーティも盛大に挙行なされ、お目出とう存じます。佐原の数々のパンフレットも久し振りで、懐かしく拝見しました。

昔々に、大川を船で、潮来から佐原の祖母様宅へ藤岡系のイトコ達と伺ったことを想い出します。（名簿参加）

何につけまして、陽子さん、またお骨折りの安藤様方のお姿が見えませんかが残念でございます。

今後とも、研究会の発展を祈念申し上げます。とりあえず、御礼まで。」

●金澤敏知さん（元国土地理院長）  
「伊能忠敬先生関係の資料をお送り  
くださいまして、有難うございま  
した。  
「確かな一歩」興味深く拝聴しまし  
た。」  
（名簿参加）

●西川 治さん（東大名塾教授）  
「国宝指定記念、伊能研十五周年記念」大成功、おめでとうございます  
昼、NHKのニュースで拝見しました。少々体調を気遣い、折角の催しに参加せず、生涯の悔み、となりました。関係資料、大切に保存、いつか他で御紹介できれば、と余命の長からんことを願っています。  
ありがとうございます。

（公費納入し、都立で欠席）

百七十名ものご参加をまとめるまでの、準備万端を整える御努力、いかばかりかと想像しております。先日伊能洋さまから通信あり、陽子さまを偲ぶ十句が添えられ、感慨深く偲んだところでした。昨年は重要

人物お三人が亡くなり、大變でした  
ね。私の方はそれに加えるに、妻が  
昇天し、皆様からはげましていただ  
きました。  
渡辺様、御健勝に過ごされます  
ようお祈りします。ありがとうございます。  
ございました。」

白根さまは、昨年末、祝賀会の案内を受け、すぐ出席と通知して送金されたあと、奥さまが亡くなられ、御欠席となりました。参加名簿には出席として、資料一式をお送りしました。

あらためまして、謹んで奥さまの御冥福をお祈り申し上げます。合掌

●神保 誠さん（忠敬の父の実家当主）「過日は大変お世話になり本当に有難うございました。心より御礼申し上げます。」

お陰さまで、子孫達、一同に  
会することが出来て、本当に記  
念すべきことでした。

その翌日は知人から電話、ま  
たお逢いしたときなど、時の人  
になってしまひ有名人でした。

これまた渡辺さん、先祖のお陰  
と感謝しております。

コピーと写真をお送りくださ  
り、重ねがさねお礼申し上げま  
す。どうぞお元気で。」

●柏木隆雄さん（税理士・作詞家）  
「お便りと写真、ありがとうございました。催しも全国に配信され、盛会に終了しましたこと、渡辺さんの多大な御尽力の賜ものと感謝いたしました。演奏の

●飯塚葉子さん（元中学校理科教諭・高宮家八代目二女）



「前日来の雪が残り、時々氷雨の降る中で祝賀パーティーと記念式典が開かれた。

先生の講話が私の耳目を引きつ  
けた。フロアー展や、伊能ウ  
オーク、海外での忠敬の地図の  
発見など、私が新聞などで知っ  
ていたことの多くは、この研究  
会の活躍によるものだ。この研  
究とを初めて知った。これらが忠  
敬関係資料の国宝指定に大きな  
力になっていったのだ。

戸村先生が、高宮家に嫁いで  
きた折枝や秀に關して、精力的  
に調べておられることは、実家  
からの便りで聞き知っていた。  
今まで二人は忠敬の孫であると  
思っていたが、孫ではなくひ孫  
であるという、大谷亮吉以来孫  
の間違いを正す新説が、今回の  
発表内容だった。

平成十一年、朝日新聞に忠敬  
の測量日誌から「房総を測る」  
が連載された。私は忠敬が九十  
九里浜を測量するとき、孫の折  
枝や秀に會っているのではなか  
ろうかと、楽しみに読み進めた  
が、それらしき記述はどこにも  
なかった。位牌を調べて見ると、  
二人は忠敬が亡くなった後に生  
まれていた。今よりずっと早婚  
だった時代に、忠敬が亡くなった  
はあとに孫が生まれると言ふの  
う疑問が残っていた。それが今  
回の戸村先生の調査発表で納得  
出来た。ここに至るまでのお骨  
折り、有難うございました。

研究会のますますのご活躍を  
期待しています。」



国宝指定祝賀 & 伊能研十五周年記念行事  
出席者名簿 (順不同・敬称略)

来賓 二七人

宇井成一 香取市長  
林 幹雄 衆議院議員  
谷田川元 衆議院議員  
岡本 博 国土地理院長  
吉兼秀典 国土地理院参事官  
志賀直温 東金市長 講演のみ出席  
斎藤 隆 横芝光町長  
川島伸也 九十九里町長  
鈴木全一 元佐原市長  
伊藤和男 千葉県議会議員  
谷田部勝男 千葉県議会議員  
関 亮 香取市教育長  
木村 修 県立佐原高校長  
青柳英男 県立小見川高校長  
平山真佐雄 佐原高校同窓会長  
高岡正剛 香取市議会議員  
宇井正一 香取市議会議員  
河野節子 香取市議会議員  
坂本洋子 香取市議会議員  
郡 茂雄 香取市議会議員  
小野勝正 香取市議会議員  
根本義郎 香取市企画財政部長  
木内志郎 香取市国際交流協会会長  
柏木幹雄 佐原商工会議所会頭  
椿 直吉 リブラン社主  
荒井利尚 佐原青年会議所副理事長  
菅井康太郎 佐原青年会議所前理事長

伊能図フロア展開連来賓 一〇人

松岡直武 日本土地家屋調査士会連合会長  
大星正嗣 日本土地家屋調査士会連合会副会長  
木谷道宣 日本ウオークキング協会副会長  
堀野正勝 伊能図フロア展中央事務局局長 つくば市  
大内惣之丞 元伊能ウオーク本部隊長 習志野市  
佐野靖明 日本ウオークキング協会 千葉市  
伊形友男 東総歩こう会会長 香取市

会員

七二人

(青字は遠来のお客様)

片山 篤 千葉県ウオークキング協会副会長 市川市  
鎗田光明 千葉日報社事業局長 千葉市  
小林清一 千葉日報社事業局 千葉市  
西川 治 東大名誉教授(地理学) 多摩市  
安藤政璋 元船舶機関士 横浜市  
矢能 彰 職域訓練講師 さいたま市  
竹村 基 イノヘディア同人 名張市  
馬場良平 佐賀銀行OB 武雄市  
大沼 晃 キヤリアアドバイザー 藤沢市  
野田茂生 元NHK記者 福岡市  
菅井慎一 忠敬茶屋社長 香取市  
猪原紘太 株式会社トグラフィック会長 小平市  
江口俊子 主婦、油絵 山武市  
秋間 實 都立大学名誉教授 逗子市  
高安克己 島根大学名誉教授 松戸市  
伊能達雄 佐原出身 藤沢市  
河島悦子 元福岡県職員 筑紫野市  
齊藤 仁 学習院名誉教授 東村山市  
浅井京子 早稲田大学准教授 日野市  
山本公之 戸田建設OB 小平市  
白根貞夫 横須賀文化財協会役員 横須賀市  
岡部孝子 主婦、ウオークカー 足立区  
齊藤重則 測量会社会長 函館市  
齊藤サダ 測量会社専務 函館市  
小林順三 元高校教諭 相模原市  
河西 浩 小学校教諭 甲府市  
河西美恵 小学教諭河西浩夫人 甲府市  
中川幸子 古文書研究家 世田谷区  
久保木恒雄 津宮出身 柏市  
狼 芳明 会社役員、佐原関係者 藤沢市  
清水靖夫 元大学講師古地図研究家 新宿区  
石川清一 伊能研九州支部長 福岡市  
河崎倫代 元高校教諭(日本史) 金沢市  
山浦佐智代 主婦 三条市  
吉田正人 筑波大学准教授 一宮町

伊能三三代 管理介護士 札幌市  
首藤郁夫 科学史学会関東支部長 府中市  
松尾紀成 元高校教諭 嬉野市  
朝岡洋子 主婦 千葉市  
川口富太郎 東京電力OB 香取市  
島崎恭一 元NTT役員 杉並区  
川上 清 常陽銀OB 水戸市  
坂本 巍 三菱電機OB 藤沢市  
小池美幸 伊能四郎右衛門家 東久留米市  
永野達代 鳥瞰図画家 鎌倉市  
坂本義親 NTOB 加古川市  
喜多昭一 元高校教諭 北区  
松宮輝明 陶芸家、大学講師 須賀川市  
伊藤浩史 JWA専門講師 相模原市  
平岡佳子 元高校教諭 綾部市  
金窪敏知 元国土地理院長 世田谷区  
藤岡健夫 伊能家縁戚 日立OB 横浜市  
直江泰子 伊能家縁戚 熊本県築西市  
廣兼信介 土地家屋調査士 島根県益田市  
香取 武 三河一宮砥鹿神社宮司 豊川市  
野上哲夫 小児科医 竜ヶ崎市  
小滝規子 元公務員 渋谷区  
大宮信篤 忽那島八幡宮宮司 松山市  
丹羽菊乃 主婦 世田谷区  
土肥規男 元国土地理院参事官 我孫子市  
橋本新治 企業研修講師 柏市  
今村恵二 富士ゼロックスOB 白井市  
大坪秀二 元武蔵高校長 杉並区  
大庭 功 元伊能ウオーク本部隊員 世田谷区  
鈴木皓之 元会社社長、骨董商 杉並区  
井上辰男 測量士 福岡県筑前町  
伊藤栄子 古文書研究家 練馬区  
横川淳一郎 元小学校教諭 兵庫県柏原市  
伊能理恵 伊能三三代長女、学生 札幌市  
加藤忠三 伊能図研究家 静岡市  
佐藤正弘 東北大学図書館課長 仙台市



植田浩一	元朝日新聞社	大田区
間々田広	北方史研究家	足立区
藤田宏	東大名譽教授(数学)	文京区
藤田淑子	藤田宏教授夫人、医学博士	文京区
辻本元博	福助OB	堺市

**市民参加者他 六人**

木内信次	木内セレモニ―会長	香取市
谷仲秀夫	千葉文学研究会主宰	千葉市
加藤 研	山佐時計計器社社長	目黒区
和田幸造	山佐時計計器営業部	目黒区
石橋道雄	元東総歩こう会長長男	香取市
中村 進	元千葉県行政書士会東葛支部長	松戸市

**神保家関係 三人**

神保 誠	神保家当主、元高校教諭	横芝光町
神保弘之	忠敬父の家当主、酒々井町教育次長	横芝光町
海保英之	海保家縁戚元横芝光町課長	横芝光町

**伊能家関係 十四人**

伊能 洋	洋画家、伊能家六代目次男	世田谷区
井上靖子	伊能家六代目長女	所沢市
伊能 亮	六代目次男伊能洋長男	世田谷区
藤岡洋一	「伊能ます」末裔 藤岡家長男	横浜市
藤岡峰夫	「伊能ます」末裔 藤岡家次男	横浜市
藤岡修二	「伊能ます」末裔 潮来郵便局長	潮来市
柏木俊一	伊能妙諦末裔 柏木本家	香取市
柏木隆雄	伊能妙諦末裔 作詞家	市川市
酒井道久	埼玉県立大・準教授彫刻家	横浜市
奥永 渚	伊能琴女末裔(妹)	福岡県福岡市
綿貫理絵	伊能琴女末裔(姉)	横浜市
小林香久子	伊能琴女末裔(叔母)	横浜市
岸本 純	伊能琴女末裔(姉)	横浜市
松田武彦	伊能琴女末裔(母の兄)	大和市

**伊能七家(伊能家縁戚) 八人**

伊能辰郎	伊能茂左衛門家当主	香取市
------	-----------	-----

伊能栄一	伊能平右衛門家当主諏訪神社宮司	香取市
伊能まさ子	伊能平右衛門家夫人	香取市
中村秀子	伊能平右衛門家当主妹	千葉市
伊能楯雄	伊能大作家当主元記念館長	香取市
伊能昇一	伊能彦作家当主元千葉コク社社長	千葉市
伊能和子	伊能彦作家夫人	千葉市
伊能周作	伊能彦作家令孫	千葉市

**高宮家関係 賓客 三人**

中村敬一	高校教諭(地理)	千葉市
中村英津子	版画家	千葉市
戸村茂昭	イノベディア編集幹事	山武市

**高宮家関係 十二人**

稲生吉雄	伊能盛右衛門家(稲生勘兵衛家)	千葉市
高宮啓明	高宮家九代目当主	東金市
高宮 文子	高宮家九代目夫人	東金市
高宮 宏	高宮分家四代目当主	東金市
高宮昌子	元高校教諭(生物)	東金市
飯塚弘之	高宮分家四代目当主夫人	東金市
飯塚葉子	元中学校教諭(社会)	東金市
橋本かな江	高宮家八代目次女の夫	館山市
橋本佳子	元中学校長(理科)	館山市
高宮 勲	高宮家八代目の次女	館山市
高宮 勲	元中学校教諭(理科)	館山市
高宮リヨ子	高宮家七代目長女の孫 会社社員	東金市
高宮志織	郷土食研究家	東金市
	高宮家八代目三男	東金市
	元三井化学株	東金市
	高宮勲夫人	東金市
	元千葉県立看護専門学校校長	東金市
	高宮勲長女	東金市
	保健師、大学病院勤務	新宿区

**事務局出席数 十二人**

渡辺 一郎	名誉代表、NTTOB	渋谷区
星埜由尚	代表理事、元国土地理院長	つくば市
鈴木純子	事務局長	東久留米市
香取禧良	元国会図書館課長	
塚本倫正	佐原支部長	香取市
	元佐原市監査委員	
	元高校長、	
	成田市生涯教育大学院副学長	成田市
伊能敏雄	香取市議	香取市
本郷靖枝	元佐原市福祉事務所長	香取市
成家淑子	元中学校教諭(理科)	香取市
宮内 敏	元高校教諭	銚子市
窪谷悌二郎	伊能家縁戚	潮来市
香取秀紀	元佐倉南高校長	香取市
新沢義博	元伊能ウオーク本部隊	江東区



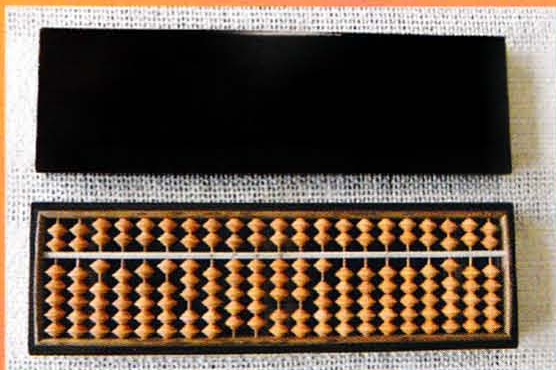




潮来の藤岡家に伝えられた、忠敬の遺品が香取市に寄付されることになりました。これらは、会員藤岡健夫さんの祖母が、伊能家から嫁に来る時に貰ってきたものだそうです。

- ① 忠敬の算盤、② 江川太郎左衛門英毅（英竜の父）からの書状、③ 長女妙薫への年賀状、④ 稲取付近の下図、の四点です。

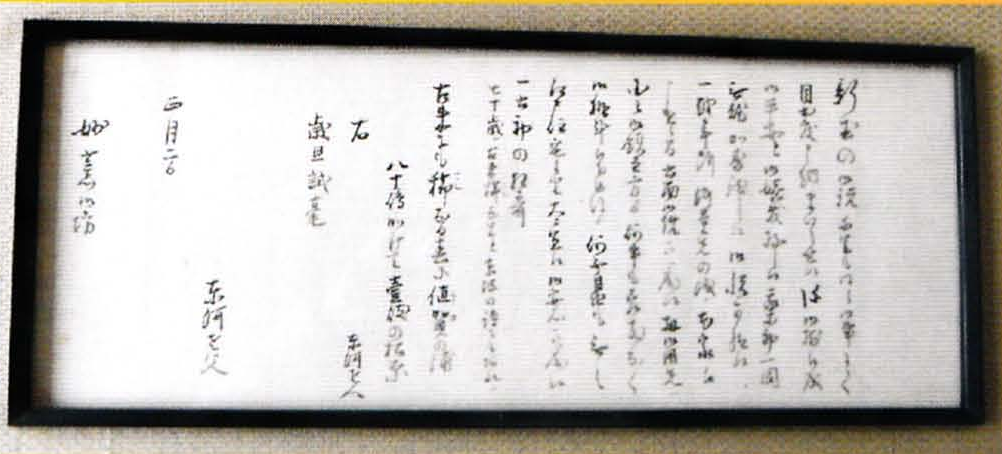
（写真撮影・渡辺一郎）



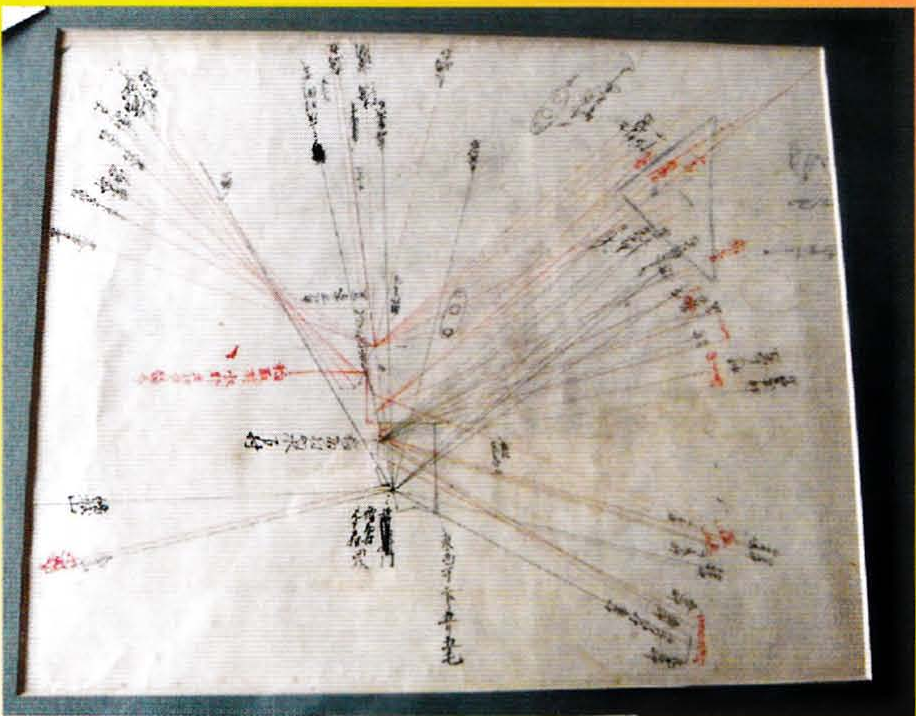
① 忠敬の算盤



② 江川太郎左衛門英毅（英竜の父）からの書状



③ 長女妙薫への年賀状



④ 稲取付近の下図

## あとがき

昨年暮れから、色々準備を進めてまいりました「伊能忠敬関係資料国宝指定記念・伊能忠敬研究会十五周年」記念行事が終わりました。このイベントの会計は関係者の方々の御努力で若干の黒字となりましたので、報告いたします。

当初、会費だけでは赤字を想定し、名簿参加という寄付金をお願いしましたが、予想外のいい結果でした。その理由は、

- ① 二六名もの多数の名簿参加をいただいたこと
- ② 盛会で多人数の御参加をいただいたこと
- ③ 飲み物を別会計とするなど、開花亭としっかり交渉したこと
- ④ 高宮グループでCD制作費、レジュメ・参加者名簿の印刷費を持つていただき、当主の高宮啓明さんから五万円の御寄付をいただいたこと
- ⑤ 伊能敏雄市議（理事）の大変な御尽力をいただいたこと
- ⑥ 柏木隆雄さんに、歌手・伴奏者費用を形ばかりにいただいたこと
- ⑦ 宮内さんに名札印刷を引き受けていただいたこと

など関係者の皆様に多大なお世話になった結果です。厚く御礼申し上げます。特に佐原支部の香取支部長ほかの皆さんと、高宮グループには大変な御協力をいただき、ありがと

うございました。

当初から考えておりました記念誌ですが、黒字分を財源として、懸案の会誌のカラー化実験を兼ねて発行することとしました。さいわい会員の島根大学名誉教授の高安さんが、編集主任を引き受けていただき、このような立派な記念誌が出来上りました。

高安先生、ありがとうございました。それから、本誌に対する皆様のご感想をいただきたいと思います。六四頁立ての従来の会報も頁数を減らして、このよう形で発行してはどうかと思えます。PSDによる完全原稿を作り、オンライン発注することにより、予算的には従来の枠の範囲内でおさまる見込みです。

作り方は高安先生が指導してくださいさるそうですので、編集委員を引き受けていただける方は手を挙げてほしいと思います。

出稿者へのお願いとしては、編集委員に負担をかけないため、依頼原稿以外は、必ず完成原稿を電子データとして入稿してほしいと思います。それから、写真は鮮明なこと、写真を多く入れてカラーで見せる原稿が良いでしょう。また、頁数を減らしますので、編集方針に従って原稿は取捨することになるでしょう。

（渡辺一郎 記）



追悼 佐久間達夫さん、伊能陽子さん、安藤由紀子さん



▲ 安藤由紀子さん

祝賀会を通じて、これまで研究会の活動に多大な貢献をされた、三人の方々を偲ばれる声が沢山ありました。あらためましてお三方に哀悼の意を表し、御冥福をお祈り申し上げます。

伊能忠敬研究会顧問

伊能 陽子さん

東京都世田谷区のアトリエで、伊能忠敬から7代目にあたる洋画家、伊能洋さん(76)は、妻・陽子さんの死がまだ信じられずにいる。「一番びっくりしたのは本人でしようね」

きた。戦中戦後の混乱期に洋さんの祖母が千葉県香取市の家と遺品類を伝えた。母は、国の重要文化財となった遺品類を同市に寄贈、それを収める記念館ができた。その後も、おひなさまや着物を包んだ紙が地図の下図だったり、



東京・深川の富岡八幡宮に初詣で。伊能忠敬の銅像の前で02年1月4日、伊能陽さん撮影

いのう・ようこ  
1月25日死去(急性心不全)75歳  
1月28日葬儀

測量の大家の遺品守り

の残る下図や緯度1分の長さを歩測した測量図もあった。この出合いが研究を大きく進めた。フランス中図の里帰り展を機に伊能忠敬研究会が発足した。

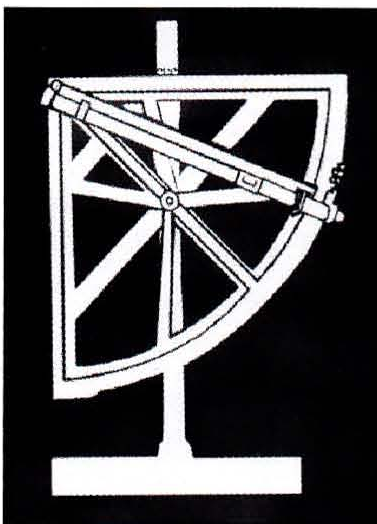
▲ 惜別 伊能陽子さん (朝日新聞 2010. 3. 13. 夕刊)



伊能忠敬の遺品を整理・解説する

伊能 陽子さん  
ボロボロになった長さ一  
びの紙を水に浸し、のりを  
付け乾かす。二百五十年前  
に描かれた朱色の地名や緑  
色の山が浮かび上がる。  
江戸時代、初めて日本を  
実測して全国地図を作った  
伊能忠敬。その地図の下絵  
など遺品約六百点の整理や  
裏打ち表装をしている。

▲ 朝日新聞「ひと」欄 (2000. 12. 22. 夕刊) に登場した伊能陽子さん



伊能忠敬研究

伊能忠敬関係資料国宝指定記念  
伊能忠敬研究会十五周年記念

特集号

発行日 二〇一一年五月二〇日

編集 高安克己

発行 千一五三〇〇四二

東京都目黒区青葉台四一九六 日本地図センター2F

伊能忠敬研究会 代表理事 星埜由尚

電話・ファックス 〇三三四六六九七五二

印刷 印刷通販プリントパック

http://www.printpac.co.jp